

## 令和5年度 第4回 宇部市地域自立支援協議会 会議録

日 時:令和 6 年 2 月 8 日(木) 18:00~20:00

場 所:宇部市役所 3-3 会議室

出席者:委員 16 名、欠席者 2 名、市 10 名

### 1 議事

#### (1) 日中サービス支援型共同生活援助事業における実施状況の報告及び評価について (資料 1-1) (資料 1-2) (資料 1-3)

##### ■意見および質疑応答

・強度行動障害の方が多いがどういった支援の工夫をされているか。

(事業者)何が起こるかわからないのが現実だが、その日あった振り返りを共有していく。虐待ではないが、ちょっと力が入りすぎるといったことなど事例を共有してより良い支援につなげていっている。

・高齢化といったキーワードがあったが、入居者の支援から介護への意向などはあるか。

(事業者)1 名の方が、介護保険の利用を検討している。本人の希望があればケアマネジャー等と連携していく。その1 名の方は現在そこまでの意向はないが、希望があれば関係各所と連携をとりながら手続きをしていく予定である。

#### (2) 地域生活支援拠点等の状況報告及び検証について (資料 2-1) (資料 2-2)

##### ■意見および質疑応答

・資料 2-2 で基幹相談のところ。R3ではコロナの影響で相談件数が少なくなっているのか。

(事務局)集計方法の変更によるものである。R3からは相談を受けるたびに件数をつける形としている。実態に即した数値としている。

・相談件数の数字が出ているが、手帳を持っている割合などどうか。どこともかかわっていない、病院の相談を受けていない方が就職相談に来られてもすぐにサービスが利用できず、時間がたつ中でまたひきこもりや家族の困難が生まれることもある。どこともつながっていなければ支援できない状況があるのではないか。悩ましい部分である。相談件数の中の割合を見ながら今後のサービスを考えていく必要があるのではないか。

(事務局)手帳の所持率などはわからないが、相談については適切な機関に引き継い

でもらっている。そういった課題に対しては今後取り組んでいきたい。

・子どもから大人まで地域で暮らしていくため、切れ目のない支援をどこまでつなげるのか。発達の遅れがある子について親に説明するのが大変だという声を聞いた。認めたくない部分もあるが、早く見つけて相談支援に繋がると良いと思う。いろいろな相談が進んでいくと良い。

・現状、発達障害に関しては小児科と大人のところで切れ目ができてしまっている。なんとかしないといけないとは思っているがうまくはっていない。大人の発達障害については手帳など出ていない人が多い現状ではないかと思う。医療サイドの課題と考えている。

・むつみ会でうつ病や統合失調症など家族の方の相談事業をやられているが、すごく相談が多い。子どもの精神疾患やひきこもりなど、悩んでいる親が多い。ここの数字には出てこない。市外から相談にくる家族もある。そのあたりのデータもあるといろんな分析ができると思う。

(事務局)昨年度から山口大学と社会連携講座を実施している。ひきこもりの実態調査の分析結果をもとに、支援を今後どうしていくのか検討していく。ひとつの解決の手掛かりになればと考えている。

### **(3) 第五次宇部市障害者福祉計画、第7期宇部市障害福祉計画及び第3期宇部市障害児福祉計画のパブリックコメントについて (資料3-1) (資料3-2) (資料3-3)**

#### **■意見および質疑応答**

・ペアレントメンターの活用について市で応援いただけるということで、療育施設のうべつくし園の親御さんたちを対象にメンターとして相談会をしている。市との関わりはどう考えているか聞きたい。

(事務局)4月からの法改正により、児童発達支援センターの機能が強化される。うべつくし園と連携を強化していきたい。また、計画にもある発達障害の関係で支援を強めていきたい。来年度は、こども支援部会も含めて総合的に考えていきたい。

・B型からの就労は本当にタイミングよく高い数値が出ていると思う。次回は数字が下がってもおかしくない。就労選択支援が始まってくるとさらに難しくなる。B型の利用者からの就労は本人がもたない、すぐやめてしまう傾向が強いので控えているようである。

・113 ページの合理的配慮の用語解説について、もう少し詳しく書いていただきたい。これだとちょっと困っていることに手を貸してあげればよいと誤解されるのではないか。

社会的障壁の解消のために行うものであり、やったりやらなかったりではなく、やらなければいけないのもう少し詳しくしていただきたい。

(事務局) 合理的配慮は、この4月から民間事業者も義務化になる関係で、周知を進めていく必要がある。用語説明部分については修正する。

・1月の地震をうけて、同じ災害が起きた際どうなるのかなど意見を出し合っている。当施設が障害者の受け入れ先となるが、対応を考えている中で、水や食料など十分かを考えると宇部市内各施設で協力し合っ、いろんな状況に対する受け入れ先について考えていきたい。私たちも自分たちで考えていこうと思っている。

・防災については本当に重要な議題である。熊本地震で反省したはずだが、能登でも同じようなことが起きているように思える。

(事務局) 健康福祉部全体で、障害者、高齢者、子どもも宇部市ならどう動くか、考えさせられた出来事である。宇部市では、来週庁内で図上訓練を予定しており、災害対策本部にすべて集約して、今何が起こっていてどう対処するのかを想定して訓練を実施する。避難所などどうなるのか、いろんな課とも協議していかないといけない。災害に強い宇部市にしていきたい。

・災害時の事例などがあれば検討のためにも教えてほしい。生の情報が伝わってこないこともある。

(事務局) 災害派遣福祉チームDWATというのものもある。福祉的な支援もしっかり体制をつくっていく。

**【障害者スポーツ大会の実績集計方法を参加者数から開催回数にすることについて】**

・人数ではなく、回数にするということは妥当だと思う。県外から来られるパターンもある。極論では月に5~6回なにかやっている気がするので、行政がすべて把握できる届出などのシステムが必要だと思う。

・障害者のグランドソフトボールの参加者は県外からの方が多く、宇部市からのメンバーは数名で、県のチームで15名程度だった。

・学生も関わっており、大小合わせるといろんな活動をしている。把握できると良い。

・どんどん新しい種目が出てくる。ウォーキングサッカーなど。

・視覚障害者の卓球でサウンドテーブルテニスがある。市長にも何度もお越しいただ

いている。やり方やルールを少し変えると目が見えない人でもやれるということで、毎年県外からも集まってやっている。ブラインドサッカー、ボッチャなど普及している。それを通して理解していただくということで福祉まつりなどでも紹介した。楽しみながら特性を理解してもらおう。

・開催数が良いと思う。開催に関してはSNSなどで発信していただくと、参加も増えるのではないかと。

(事務局)発信部署とも連携して情報発信に努めたい。

#### (4) 宇部市地域自立支援協議会設置要綱の改正について (資料 4-1) (資料 4-2) (資料 4-3)

##### ■意見および質疑応答

・事務局会議と専門部会が入ったということだが、専門部会とはどういうもので、何人で、任期どのくらいかなど、細則等で細かいところまで明記された方が良いかと思う。

(事務局)事務局会議については、市障害福祉課、委託事業所を事務局として考えている。事務局会議と実務者会議については要領等を作成予定。

#### (5) その他

(事務局)今後、計画について、細かい修正等と概要版については、事務局に一任いただきたい。

委員一同 同意

以上